

レスキュー ファンデーション 2010 年度アジア民主主義・人権大賞授与

台湾民主主義財団が本日、インドのレスキュー ファンデーションが第 5 回アジア民主主義・人権大賞を受賞したと発表した。当団体は、非政府機関として、人身売買から 10 代の少女を救出し、通常的生活を取り戻す手助けをする取組みが認められた。

レスキュー ファンデーションは、2000 年にインドのムンバイで設立された。南アジア地域において、人身売買、特に 10 代の少女の人身売買は、悲惨な状態にある。10 代の少女達は、インドやネパール、バングラディッシュの国々から搬送され、ムンバイや近隣都市で売春婦として強制的に働かされるのである。レスキュー ファンデーションは、毎年約 300 人の 10 代の少女たちをこういった虐待から救出し、ムンバイ郊外に建てたリハビリセンターで彼女たちが普通の生活に戻る手助けをしているのである。リハビリセンターでは、AIDS/HIV の医療検査や、職業訓練、基礎教育などを提供しており、センターは、被害者の実質的かつ精神的な回復を目的としている。リハビリセンターの最大収容数は、最高 100 名にすぎないが、レスキュー ファンデーションは常にできるだけ多くの被害者を収容できるよう努めており、その全任務をウェブサイトで詳細にわたって解説している。

レスキュー ファンデーションを推薦したオランダ団体”Stop Kindermisbruik” (ストップ幼児虐待)は、その推薦状で、協働任務の際、レスキュー ファンデーションは、真に最善のリソースと人力を駆使して被害者の救出と癒しにあたり、傷ついた犠牲者に人生をやり直す機会を与えていたと報告した。もう 1 人の推薦者は、Vaidehi alias Vibhuti Joshi で、17 歳の時に人身売買の被害にあった女性である。彼女は人生を回復し、最悪の記憶から立ち直る事が出来た。

レスキュー ファンデーションは、2 段階の審査プロセスを経て、25 の指名候補の中から選ばれた。最終審査員は、アフガニスタン独立人権委員会議長の Sima Samar 博士、京都人権協会会長の 安藤 仁介氏、モーリシャス真実と正義委員会会長 Alex Boraime 博士、フィリピン方策開発学協会会長 Carolina Hernandez 博士、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する国連条約前シンガポール代表、Anamar Tan 博士、TFD 議長の Wang Jin-pyng 氏、TFD 会長、Teh-fu Huang 氏で構成されていた。

レスキュー ファンデーションは、12 月 10 日の国際人権の日に台北で行われる授賞式にて、2010 年度アジア民主主義・人権大賞を正式に授与される。大賞には、南アジアにおける女性の人権を保護する取組みへの支援金として十万美元の助成金が含まれている。